

平成26年10月

「平成26年度全国学力・学習状況調査」の結果について

練馬区立豊溪小学校

全国の小学校6年生児童対象に、平成26年4月22日に実施された全国学力調査の結果について下記の通りお知らせします。

1 調査内容

教科に関する調査（国語・算数）

- ・Aは主として「知識」に関する問題
- ・Bは主として「活用」に関する問題

2 調査結果・分析

【国語】

| | | 正答率 | | | |
|----|--------------------------|----------|------|----------|------|
| | | 国語 A（知識） | | 国語 B（活用） | |
| | | 豊溪小 | 全国 | 豊溪小 | 全国 |
| | 教科全体 | 70.0 | 72.9 | 55.6 | 55.5 |
| 領域 | 話すこと・聞くこと | 66.7 | 72.4 | 52.1 | 51.2 |
| | 書くこと | 70.8 | 72.2 | 29.9 | 34.4 |
| | 読むこと | 69.8 | 68.5 | 57.1 | 57.3 |
| | 伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項 | 70.3 | 73.7 | 69.8 | 69.8 |

○国語 A（知識）

- ・全体では全国を2.9ポイント下回り、領域別に見ても「読むこと」以外は全国を下回っている。
- ・「漢字を読む」、「漢字を書く」に関して正答率が低い。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の故事成語の使い方に関しては15%程度下回っている項目がある（五十歩百歩、百聞は一見にしかず）。
- ・「話を聞き自分の考えを書く」項目に関しては正答率が低い。
- ・「読むこと」に関しては1.3ポイント全国平均を上回っている。

○国語 B（活用）

- ・全国平均を0.1ポイント上回っており、全国の正答率とほぼ同等である。
- ・領域別でみると「書くこと」に関してだけ4.5ポイントと大きく下回っている。「二つの詩を読み比べて自分の考えを書く」という趣旨の問題において正答率が低い。

○課題と対策

- ・正答率上位層が少なく、下位層の児童が多くいるため、その部分の引き上げが今後の課題となる。
- ・「読むこと」に関しては全国平均を上回っているため、今後は考えを深めたり、広めたりする学習に重点をおき指導する必要がある。
- ・漢字を書く・読むといった基礎学力の向上を意識した指導を重点的に進めていくとともに、自分の考えを書いたり相手に伝えたりする力をつけていく必要がある。
- ・チャレンジ50や小テスト等を計画的に行い、家庭学習では音読や漢字練習を毎日取り入れる。
- ・自分で考える時間を確保した学習を進める。
- ・「書くこと」の指導方法を再検討し、書くことの指導を意図的計画的に位置づける。
- ・漢字の読み書き・故事成語に関しては東京ベーシック・ドリルを積極的に活用する。

【算数】

| | | 正答率 | | | |
|----|------|-----------|------|-----------|------|
| | | 算数 A (知識) | | 算数 B (活用) | |
| | | 豊溪小 | 全国 | 豊溪小 | 全国 |
| | 教科全体 | 79.0 | 78.1 | 58.2 | 58.2 |
| 領域 | 数と計算 | 81.5 | 81.8 | 57.8 | 61.3 |
| | 量と測定 | 77.1 | 74.8 | 61.7 | 56.5 |
| | 図形 | 70.8 | 71.8 | 66.7 | 65.7 |
| | 数量関係 | 88.9 | 81.3 | 57.1 | 56.2 |

○算数 A (知識)

- ・教科全体としては、全国を 0.9 ポイント上回っている。
- ・領域別でみると「数と計算」、「図形」がわずかではあるが、全国平均を下回っている。
- ・「数量関係」では、全国平均を 7.6 ポイント上回っており、都平均も大きく上回っている。

○算数 B (活用)

- ・教科全体としては、全国平均と同じである。
- ・「数と計算」では、3.5 ポイントと大きく全国を下回っている。
- ・「量と測定」では、全国平均を 5.2 ポイント上回っており、都平均も上回っている。

○課題と対策

- ・AB 共通して「数と計算」「図形」領域に課題が見られる。特に、
 - ①被除数に空位のある乗法 (903×6) の計算。
 - ②「作図に用いられる図形の約束や性質」の理解 (コンパスを使った平行四辺形のかき方)。
 - ③「80cm の 1.2 倍に当たる赤テープ長さ、80cm の 0.4 倍に当たる青テープの長さを求める式を選ぶ」(基準量×割合) の計算で、割合が 1 より小さい時の立式。
正答率がそれぞれ全国を 5 ポイント、8 ポイント、7 ポイント程度下回っている。
- ・「求め方を言葉や式を使って書く」項目でも、全国を 8 ポイント下回っている。
- ・「筋道を立てて考え説明する力」や、「計算の意味を理解する力」を指導する必要がある。
- ・東京ベーシック・ドリルの診断テストによるつまずきの分析と指導の充実を図る。
- ・問題解決的な学習を積極的に取り入れ、答えを導くまでの過程を大切に学習を進める。
- ・算数少人数指導を充実させ、学力向上支援講師と連携を図りながら学習を進める。